第二十三章　林野震災概要

一、酒勾川、森戸川流域

本地方は、足柄上、中、足柄下各郡の一部を含めるものにして、主として酒勾川流域に屬し、連互せる丹澤山系は之が水源をなし、震原地なりと呼ばる。從つて、山岳地帶は、崩壞激甚、其慘害は蓋し農耕地其地の比にあらざる可し。被害林野面積は實に貳千貳百町歩に及ぶものあり。

抑々九月一日の大震は、震動激烈を極め、爲に急斜地の表土は、地被物と共に剝離崩落したる箇所枚擧に遑あらず即ち、海拔三四千尺に達せる區域一帶は、山骨峻々たる山容と化し、河川沿岸の急斜せる山脚部は、基岩露出して草木を止めざる慘況を呈するに至れり。

上述の如く、初震に於て既に急斜地若くは軟弱なる地盤は砂塵を擧げて崩落したるも、尙比較的堅固なる地盤は、一時脫落を免れたりしも、龜裂深く山骨に達するものあり、殊に九月中旬に於ける强雨が副因をなして、雨水は其龜裂中に浸潤し、土砂は泥土と化して流出し、崩壞面積は順次に擴大し、各野溪を奔走せる泥流の爲に被りたる第二次の被害も亦尠からざるものあり。

イ、森戸川流域及酒勾川下流

此地方は、概ね丘陵地にして、地勢嶮峻ならざるも、地質は新成層に屬する第三紀層の末期及第四紀層の甚だ軟弱なる砂岩、又は砂質土磧礫土より形成せらるゝを以て、面積は狹少なれども、被害の程度激甚なる箇所あり。山林地帶は、主として、酒勾川の浸潤限界地と見做さるゝ所にては、往年保安林に編入せられて樹木の伐採を制限せられた

りしも、大半は表土地被物と共に脱落して赭土敷町に亘る、從つて震災直後の降雨の際、土砂の流出多くして、下流沼と化し、泥流鐵路を毀損したる等の被害亦甚し。

崩壞狀況の特例としては、下曾我村別所に於て、約五反歩の山林は、立木の儘地滑りを生じ、移動數間に及べる所あり。同村劒澤に於ては、崩土溪谷を埋め、水を堰き止め、池沼をなせる所あり。此地方の崩壞面積は四十町歩に渉れり。

ロ、酒勾川中流

酒勾川の左岸岡本南足柄方面は、箱根、足柄の連山の一部を形成すれども、地勢甚だ嶮峻ならざるが故、大面積に亘る山林の崩壞尠く、從つて被害の程度輕微なり。被害面積は点々たる小區域なれども、約六十町歩に渉る。

酒勾川の左岸、川村松田町方面は、地勢急峻ならず、從つて崩壞の箇所は比較的尠きも、小溪流の山脚部八割は、表土崩落して三四十年生の造林地の被害多く、殊に川村地内百里川流域は、殊に被害多く、一團地三町歩に亘る樹齢四十年の杉密生林、表土と共に、溪谷に墜落埋沒せられて、その影をさへ止めざるものあり。

松田町地内は、表土深く、多量の土砂立木と共に墜落し、溪谷を埋沒したるが故に、大澤觀音澤は溪流堰かれて深淵をなし、他の小溪も、下流水路狹隘なるがため、降雨の際泥土流溢して鐵道線沿家屋を埋め、人畜の壓溺したるものあり。此方面の被害林野百三十町歩。

清水村北足柄村に屬する一部は、酒勾川の浸蝕深くして狹谷をなし、兩岸は表土淺き懸崖地なるが故に、初震の激震と共に雜木及幼齢なる杉は、一瞬時に酒勾川に落下し、山北に至る縣道は影を止めず、只龜裂深き基岩累々として膽を寒からしむるものあるのみ。

北足柄村平山並清水村谷ケには、山頂より直下山脚に至る數條の崩壞地、及山頂の草生地に、巾十間長五十間余に

亘る深さ山骨に達する龜裂多し。

又、粒狀安山岩より成れる矢倉岳方面は、山頂より山腹に及ぶ崩壞比較的多く、十年生内外の杉造林地の被害尠からず、此方面の被害二百三十町歩に及べり。

共和村方面は、酒匂川支流皆瀬川の流域に屬する盆地にして、北側は稍々高峻なる山岳地帶をなせども、崩壞淺く龜裂も亦深からず、十年生内外の雜木林の一部崩壞せるのみ。其他、皆瀬川の深谷區域は、山脚部の大半墜落し、同村字都夫良野部落に於て、山崩のため人畜の埋沒壓死せるものあり。被害林野約百町歩に渉る。

二、河内川流域

清水村、山市場神縄村内河岸に沿へる急斜地は、殆んど潰壞し、神縄村地内に於ては、長さ十町に亘りて連續的に墜落したるもの〻如き、其一例に過ぎず。山市場川西の一部を西流する各小溪流上部は、概ね崩壞したるを以て、此等溪流は崩壞部に於て深き流過溝を形成し、多量の土砂を流送して耕地を埋め、道路を潰したる丈餘の土砂、堆積至る處にあり。林野被害二百町歩に及ぶ。

イ、酒匂川上流三保村方面

酒匂川下流より、此邊一帶に流木の殘骸夥しく、樹齡五十年以上の栂、樅、毛欅、欅其他の雜木材積數萬石に及ぶ、これ盡く上流三保村地内一萬二千町歩の御料林内の崩壞に因り、九月十五日の降雨の際流送したるものにして、之がため、同村内落合に架せる高四丈の釣橋を流出せしめたる如き、如何に多量の流木なりしかを想像するを得べし。

三保村を起点として、西丹澤より東丹澤に至る海拔四千尺内外の山岳地帶は、第三紀層に屬する凝灰岩を基岩として、第三層の特種屬たる三坂層の發達したるものにして、元來傾斜急に、地皮薄弱なるため、從來多少の崩壞地あり

たる處へ、此大震動に會ひ、連續的の大崩壞を惹起せるものなり。

三保村々民より、當時の情景を聞くに、震動と同時に、全山鳴動して砂塵天に冲し、天日爲に終日暗黑なりしと云ふ。而して、中川、玄川、世附川の山脚部約八割は、基岩裸出したり。

其後の降雨は、雨量甚だ多からざりしも、崩壞地帶の崩土岩石は、水を含んで欹壞面積を擴大し、軟泥流は地被物を剝離損傷して急斜地を奔走し、住民は爲に居所なく、特に中川部落の一部及世附部民の如きは、住居所耕地を失ひ雜木林は大半流出し、炭竈は盡く潰滅せられて、生業の途なく、遂に移住せる者多し。

此外、奥山山岳地帶の御料林は、大正九年の降雨の際に被むれる山崩れ未だ全く療合せざるに、此震害に會ひ、益益崩壞地を擴大し、御料林内の造林地は、約四割の被害あり。且つ數萬の蓄積を有する蒼鬱たりし原始林も、瞬時にして裸地と化し、流失したる巨大なる林木數萬石に及ぶ。林内居住の山附勞働者の一郡は、降雨毎に起る山海嘯山崩の爲、糧道杜絶せられて困憊其極に達し、住民は當時の約半數に激減したり。

尙、山腹には、大龜裂地帶あり、各野溪には、流出し盡されざる泥砂堆く、降雨期に至りて、其被害量を倍加せるの有樣なり。因に此方面の震災林野被害面積は四百町歩に及ぶ。

ロ、川音川、花水川上流

中丹澤、東丹澤の地帶、蛭ケ嶽、塔ケ嶽を含む高峻な山岳地帶は、中腹以上は概ね崩壞して基岩露出し、一望稜々たる山容は、宛もアルプスの連山を見るが如く、被害の激甚なる事、三保村に次ぐ。民有造林地にして被害殊に大なしは、森村氏經營の寄村造林地三百町歩と、東秦野村諸戸植林地の百五十町歩の被害なりき。就中其崩壞の如何に激甚なしか證する實例として、北秦野村萩畑山に於て、南面の部分の崩壞により、二十年生内外の造林地を其儘り落下し、同時に再び對岸約二町を隔つる百七十尺の山嶺迄上昇せしめたるが如き殆んど想像する能はざる現象を呈せ

るものあり。

此外、部落に接近せる中齢の造林地一團二丁以上に亘る私有林の被害は枚擧に遑あらず。其他、上秦野村に於ける竹林の被害四町歩に達す。

震源帶の中心たりしと呼稱せらるゝ丹澤御料林の被害も亦激甚を極め、札掛を中心せる山附勞働者の一團は、四十戸二百人の中、半減して十八戸百人に至り、人心兢々たる有樣にあり。

此方面に屬する被害林野面積一千二百町歩に達す。

三、花水川流域

中郡大山町地内の林野の大字大山に屬するものは、縣社阿夫利神社附近一帶の樅を主木として、欅を混ぜる大山御料林と、土砂扞止水源涵養の保安林をなせる杉、松、扁柏の植栽地と、雜木林及萱場にして、地質は、大山及其四邊は第三紀層にして、大山町參道附近は凝灰岩を主とせるもの〻如し。

九月一日の大震災に當りて、當町人畜家屋の被害は、比較的輕微にして、少許の倒壞家屋と、數人の死者を出せるのみ。されば其被害は、寧ろ山林に於ける方稍大なるもの〻如し。山林の崩壞は、多くは山頂に近き山腹の崩壞にして、基岩裸出して復舊困難のもの多しと雖も、其總計面積は約三十町歩に過ぎず。而して、其多くは散在せる崩壞地にして、嶮峻地に於て稍大なるを見るのみ。崩壞地の集團せるものは極めて少く。唯大字大山分の相隣接せる西河原竈場入淺間山の諸字附近一帶の針葉樹植栽地に於て稍大なるあり。然れども、山頂山腹には、無數の龜裂或は峯條に沿ひ、或は小路を境として生じ、多少の雨水之に浸入せんか、直に崩落するの狀態にあり。其後、九月十五日に多量の降雨あるに及び御料地内に崩壞一時に起り、樅の古木は岩石及泥土と混じて流出し、途中障碍物に妨げられ、處々

に堰き止めらるゝこと屢々にして、其都度勢を増大し、終に何物をも破壊せざれば竭まざるの勢となり、徑一間にも及ばんとする巨木は直立して流れ、河川道路の別なく押出し、觸るゝものは皆之を卷き込み、或は破壊し、爲に百四十余戸の家屋流出、或は埋沒、春夏の兩期登山者を以て殷賑を極めし大山町附近の主街は一朝にして潰滅に歸し、道路に堆積せる土砂の高さ一間餘、而も川底はこれと同高となり、これ等の上には影の如くなりし大木累積し、所々に埋沒家屋の屋根のみ見ゆるありて、慘狀目も當てられざる狀態にあり。唯不幸中の幸とも云ふべきは、此間住民は早く高所に避難せる爲只一人の死者ありたるのみなりき、扨其山津波の支流より押來りて本流と合せんとする所に於ては、對岸に乘り上げ、爲に山腹の家屋破壊流失せるより見るも、亦如何に勢の激烈なりしかを知る可し。斯くして、住民は全く恢復の望なしとて、一時は永住地を捨てゝ他に移住せしもの多かりしも、時日を經るにつれ追々地容固形しつゝあるを見て、漸次原地に歸り、前業に復するに至れり。

其後一月十五日の激震に、又々山林の崩壊約一割を増し、降雨毎に崩壊益々擴大したり。當時震原地は、當地脊面の丹澤山なりと一般に稱せられたるに關らず、建築物の被害殆んゞなかりき。

大山の沿道にありし良辨外數個の名瀑は、九月一日の地震の際瀑水止り、平凡なる斷涯と化し、又登山の男道女道も破壊せられ、男坂は殊に崩落甚しく、全く登山不可能となりたれゞ、女坂のみは少許の崩壊なりしかば、間もなく修理せられたり。

中郡高部屋村の中、大山北東の側面なる大字日向には山林の大被害あり。花水川の上流にして、部落民は大部分山林よりの收入によりて生計を立て居れり。九月一日の震災に於て、既に八十町歩の崩壊を生じ、而も山頂山腹には龜裂甚しく、剩へ大山同樣九月十五日の降雨に山津波起り、沿川の田畑家屋は埋沒流出して一面の河原と化し、河巾三十間にも及ばんとする所をも生ぜり。其後、降雨ある毎に崩壊は益々増大したり。崩壊は、主として、嶮峻地に於て

は山頂より、緩斜地に於ては山腹より崩壞し、集塊岩變質粘板岩等の基岩の裸出せるもの多く、復舊容易にあらず。其後暫くの間は山嶺に攀りて耳を欹つる時は間斷なき岩石崩落の音を聞くといはれし程其崩壞は激甚を極めたり。一月十五日の地震に於ては、特に大なる崩壞はなかりしも、龜裂は一層增加せるもの〻如し。

四、相模川流域

愛甲郡煤ヶ谷村、玉川村の兩村の崩壞は、相模川の支流小鮎川流域の崩壞にして、九月一日の地震に於て煤ヶ谷村は約二百町歩、玉川村は約百町歩の崩壞地を生じ、九月十五日の降雨は、崩落土砂を押出して沿川の田畑の埋沒せられたるものあり。されど、人畜家屋の被害は輕微なり。

愛甲郡宮ヶ瀨村、津久井郡鳥屋村の兩村は、相模川の支流中津川流域一帶の崩壞なり。中津川の一支流の宮ヶ瀨村を貫流するものは丹澤山脈の北面より流出するものにして、彼の丹澤御料地崩壞の一部は、之に押し出し、爲に一時は河水を堰き止めしが、軈て大音響と同時に流出し來り、目通周り二丈に及ばんとする大木と、家屋大岩石は泥土と混じ流れしこと、大山と同樣なり。然れども、道路上に押上げ人畜家屋に被害を及ぼさざりしは幸なりき。

鳥屋村に於ては、村有林の崩壞地多く、山頂山腹の崩壞甚だしかりしが、山津波に因る被害は少なかりき。又、九月一日の地震と同時に、同村字馬石の縣道附近に大崩壞起り、數軒の家屋その下敷となり、十數名の死者を出せり。

元來、中津川は、鮎の漁獲多きを以て現はれしが、山津浪の爲、翌年漁獲期となりても一片の魚影だに認め得ざりき。崩壞面積は、宮ヶ瀨村に於て百五十町歩、鳥屋村に於て二百五十町歩、共に多くは急傾斜地の個所なりき。

五、早川流域及海岸方面

足柄下郡内に於ける被害面積は約五百町歩、損害額十萬六千圓なり。被害の激甚なるは早川流域なる箱根地方、片浦村根府川にして、岩村吉濱等之に次ぎ、仙石原、箱根町方面は比較的輕微なるが如し。今、各方面に亘り、これが概要を擧ぐれば左の如し。

早川流域なる本地方の内、被害の大なるは温泉村、足柄村(早川に面せる分)湯本村等、早川の沿岸なり。當地方一帶の基岩は概ね安山岩で、火山灰を混じ、早川兩岸の如きは表土淺きが爲、地震と同時に落下し、杉の幼齡林及雜木林は一瞬にして早川内に落下埋沒し、若くは挫折し、早川右岸にありし國道は全部埋沒し、一時は河水を堰き止めたるを以て、下流たる湯本村塔の澤以下の部落民は總て河中を徒歩避難せり。

又、山腹を歩れる箱根電車線路は、石垣、トンネル等を破壞せられたるもの多數あり。要するに、湯本村より宮城野村に至る四里の間は、蜿蜒たる赤裸の山容と化し、其面積百町歩に達す。又、温泉村底倉にある早川支流なる蛇骨川は、震災前の川巾約十間内外なりしが、震因に依り、上流の山体より山津浪を生じ、其兩側の雜木林を悉く埋沒又は轉落し、其河川に架したる橋梁の落下し、橋上に避難したる多數の者は墜落慘死せり。又、早川支流にして、湯本村より別るる須雲川沿岸も、前記早川の沿岸と同一の狀態で基岩を露出し、山骸稜々其延長二里半に亘り、面積約七十町歩の被害を生ぜしめたり。又、比較的被害輕微なる仙石原村、箱根町と雖も、點綴崩壞せしもの、又は山脊部より龜裂を生じ、表土心土の相離反するものなど、被害殆んど全村に及び、其被害個所枚擧に遑あらず。

六、片浦村根府川

根府川は、本縣内に於て、山壞の爲め最も慘狀を呈したるもの〻一なり。震災前根府川は川幅約二間内外にして、海岸に注ぐ川口は凹地をなし、此處に戸數約三十戸を算する一小部落あり。熱海線根府川鐵橋は、此部落上に架した

るものにして、延長五十餘間、高さ百尺以上の大橋梁なり。然るに、震因により、約一里半の上流なる山体崩壞し、之が爲山津浪を生じ、海岸に向つて倒木土砂を押出し、川岸の樹木は悉く埋沒して其跡を止むるもの殆んごなく、僅五分間位にして下流なる前記の部落全部を埋沒若くは海中に押出し、爲に住民の慘死せるもの八十名内外に及び、頑强なる鐵橋も破壞せられ、停車場に停車中の客車一列車は乘客と共に海中に流沒せられたるの悲慘事あり。

現今に於ては、川の幅員五十間餘に及び、其兩岸泥土砂堆積し、其慘狀を語るもの〻如し。この崩壞面積約百町歩に及ぶ。

同村米神部落も、稍々同樣の狀態にして、山津浪のため部落の約半數三十戸は埋沒し、死者五十餘名を算するに至れり。

七、吉濱村鍛冶屋の幕山

吉濱村海岸を去る約二里半、幕山の山脊三ヶ所面積約二十町歩崩壞し、之が爲其下流なる鍛冶屋川を堰止め、茲に約三反歩の大池を生じ、降雨の都度下流に流出し、且つ龜裂個所は雨水浸入の爲め漸次崩壞を擴大せしめたり。

前記の池は、地元部落に於て大震池と稱し、堰水は堆積せられたる土石の間隙を流出しつ〻あるも、一朝土石の破壞せらる〻ことあらんか、下方部落は又々前記根府川部落と同一轍を踏むの恐れあるにより村民常に戰々兢々たり。

吉濱、岩村方面に於ては、被害輕微なるも、現在に於て崩壞面積五十町歩余に達せり。此方面は、元來石切場にして京濱地方に搬出し、其産額尠からざるも、石切丁場の多きため、特に崩壞を大ならしめたるが如し。

此外、點綴崩壞又は山腹山脊に於て、縱横に龜裂するもの亦枚擧に遑あらず、降雨の度是等の間隙より雨水浸入して、漸次崩壞面積を擴大し、其崩壞を增加せしむ。

八、其他

鎌倉、三浦、橘樹、高座等の各郡の如き丘陵地に於ては、田、畑、宅地等の被害に止り、山林として、崩壞被害の如きは、輕微にして、例示するが如きものなし。單に部分的にして、自然傾斜面に人工を加へ、山脚を切取りたる箇所多きを見るのみ。

今、其面積を擧ぐれば左の如し。

鎌倉郡	廿町
三浦郡	十町
橘樹郡	廿町